



観に来て下さい！

菊本千永モダンダンスステージⅣ 11月29日(土) 東灘区民センターうはらホール

PORTRAIT なにごともなきこの眺め 人形—アノコノシアワセノツテル 死者たちからのバトン 流れの中で メッセージ—福島土の神よ立ち上がり
出演 寺井美津子 金沢景子 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 坂垣祐三子 灰谷留理子 梁河茜 平岡愛理 田中文菜 稲益夢子 木村はな ハーバート真唯
原田光琉 渡辺菜子 菊原麻理奈 門家由采 新田小夏 大井逢 雲井瑞帆 坂本のより 中野菜歩 山鹿和奏 岡村春花 福本莉菜 石澤佑唯 菊本千永

今回上演する作品は、「流れの中で」をのぞくと、すべて実験劇場等で発表してきた作品です。今までにこの「研究所通信」で書いたコメントと「流れの中で」のコメントをご紹介します。

PORTRAIT

何十年ぶりに幼なじみに会ったことがきっかけで、「PORTRAIT」を創ってみようと思いました。久しぶりに会った幼なじみは、ずいぶん年月がたっているのに全く変わっていませんでした。にもかかわらず。「こんな写真できてん」と見せてくれた写真には幼なじみとそのお母さんとわたしが写っていて、確かにわたしの記憶にある彼女のお母さんなのですが、いま目の前にいる幼なじみとそっくり。「これ娘」と見せてもらった別の写真には、たしかにお嬢さんなのですが、私の記憶にある昔の幼なじみとそっくり。まじまじと彼女の顔をながめて、この子の顔にはこの子のものではない過去と未来が同居しているんだなあ、と思いました。でも考えてみれば、親だから子だからというのではなく、一人の人には過去からの本当に多くのものが存在していて、そしてとにかく生きていてそれが未来へと受け継がれていく・・・人が生きていてってなんとすごいことかと、思いを新たにしているところです。(2014年)

なにごともなきこの眺め

たつの市にある宝林寺というお寺のご住職から「この村に 大燈国師うまれたり なにごともなき 青田の眺め」と書かれた色紙をいただきました。尊い方が生まれた場所であってもなにごともなく青い田んぼがひろがっている、というおおらかな歌だと解釈し、日々特に思うことなく眺めていたのですが、東日本大震災で「なにごともなき眺め」がどれだけ大切で、そして一瞬にして消え去ってしまうものであるのかを痛感しました。日常なんてすぐになくなってしまふ・・・と思った17年前のことも思い出しました。明日生まれてくる新しい命が最初に見つめるものは「なにごともなき眺め」であってほしいと切に願います。

・きのう あのひとつがおいかけて ・きょう わたしたちがうけとった ・あした この子がみつめるだろう なにごともなきこの眺め (2012年)

人形—アノコノシアワセノツテル

阪神・淡路大震災で、私の住んでいたマンションは、全壊判定を受けたのですが、それはガスや給湯がもう直せないからという理由で、建物はずっと建っていました。荷物は何も苦労しなくても取り出すことができました。居を移すために、私が荷物を取りに戻ったのは3月過ぎ。洋服や本やCDを取り出して運び、あ！お雛様も持っていかなくては、でもこれは最後に、とお雛様は玄関に置いて、荷物を車に積んで、「終わったな」と、そのままおひな様をもちだすことなく出発してしまったのです。3月過ぎでしたので、お雛様を置き去りにしたことを思い出したのは次の年の3月でした。マンションが壊されて、瓦礫となって運び出されるその中で、お雛様はどんな思いでいた事か。もう一度私が家まで戻っていれば、気がついた事なのに！それでいて副題に、アノコノシアワセノツテル、とは図々しい話とは思いますが、いやきつとそう思ってお別れしてくれたのだと、信じて踊りを創りました。あの震災ではこんな切ない別れは多くの人が経験した事でしょうし、お雛様の側からの悲しい別れもたくさんあった事と思います。(2011年)

死者たちからのバトン

小学5年生の時、社会科の時間に水俣病のビデオを見ました。今でもありありと思い浮かぶのは、手に持った湯呑を口に運ぼうとして、その手が震えるために口元には到達できずに結局湯呑は床に置かれて、その湯呑から離れることもなく震えている手。真っ直ぐに歩こうとするのに左右にゆれて、なにかにぶつかってしまう震える足。なにも分かってはいなかったのですが、恐怖だけはありありと心に張り付いて、家に帰って「もうお魚は食べられない」と泣きました。

わたしにとって恐怖の対象であった水俣病でしたが、先日どうしても読まなければと、石牟礼道子さんの『苦界浄土—わが水俣病』を読みました。そこにあったのは、決して恐ろしい世界ではありませんでした。わたしは怖いと言って泣くべきではなかった、どんな苦しみか、ごくまっとうに生きていた人を襲ったのか、しっかりと見ていなければいけなかった、なぜわたしがこんなめに？亡くなった人たちは(生きて居られる人たちも)みな思っていたはず、との思いにふと、思い出したビデオの一場面。語り部のような人が腰かけて、なにやら歌っているその中で、ようやくききとることができた一言。「昔の海はきれかった。」

『苦界浄土』にも「昔の海」がどれだけ美しかったか描かれています。昔の海は命の沸く海。命の境界を分けな海。

もし、わたしが水俣病で亡くなった人たちに会ったなら、かれらはわたしに何を語りかけるでしょうか。恨みつらみでしょうか。苦しかったこと？いえ、きつとちがう。何かどうしても伝えたいこと・・・もしかするとわたしは小学5年生の時に受け取っていたのではないのでしょうか。「昔の海はきれかった」(2009年)

流れの中で

今回のリサイタルのための新作です。長い命の流れを踊りにしたいとずっと考えていました。営々と受け継がれてきたこと。たとえば織物。その文様こめられた織り手たちの祈り、たとえば祭り。祭りの型に秘められている祭りの担い手たちの願い。そのほか日常生活を生きているとふと感じられる、「これ、だれに教えてもらったんだろ」という驚き。なんと多くの命の果てにわたしの命はあって、そしてわたしの命の果てにもなんと多くの命が存在するか。生から押し出された生。このことを踊りにしたい。どんな構成にしたいのか、と迷っていたときに、根の国という言葉を知りました。死の国を根の国と呼ぶそうです。それなら、生の国にあるものは、木の幹や枝や葉や花でしょうか。根から養分を吸い上げて花が咲くように、死から長い時間をかけて押し上げられて、目には見えない境を超えて現れたものが、生ではないでしょうか。生と死は分断されたものではなく、一本の木のようにつながっていて、命はずっと廻っているのではないのでしょうか。死から押し出される生。生から押し出される生と、死から押し出される生、この考えを経糸と緯糸にして、「流れの中で」はできました。作品の中で、どれだけ反映できたか分かりませんが、大きな時間の流れを感じていただければ幸いです。(2014年)

メッセージ 福島土の神よ 立ち上がり

2011・3・11の原発事故以来ジワジワと、大地の深部へ、汚染が染み込んでいるのではないのでしょうか。この踊りは「福島の大地の神さま、どうぞ立ち上がってください」との祈りの踊りです。地震と津波は自然から受けた災害です。原子力発電所の事故は人間が起こした地球への災害だと考えています。六甲山のヤマンバが福島へ使者を送ります。死んだように横たわっている福島の大地の神さまを見つけ、草や木に後を託します。草や木のおかげで神さまは立ち上がりますがやはり力不足です。ここでみなさまにお願いします。舞台上のダンサー(草や木)といっしょに拍手の力を送っていただけませんか。詳細は当日お知らせします。人間として深く首をたれるもの
藤田佳代 (2014年)

発表会がぶじ終わりました！ 2014年10月25日 神戸文化大ホール

届ける 花たちは 精いっぱい 今を咲く ぼくのヒムカをさがして

出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆

発表会が無事に終わりました。出演者たちにとっては、5月から練習を始め、とにかく練習を重ねて、合同練習や照明下見を終えて、やっと迎えた本番でした。発表会の一日はあっという間に過ぎていきます。九時の開館に合わせて集合。仕事は山のようにあります。石を作るからと集まってくれた小学生。とにかく何でもいいから来てと言われた中学生、高校生、研究科生とOG OBもいます。舞台装置を準備しているその間にも楽屋の用意やらなんやかやと準備。すべて終わって楽屋に戻るともう昼前。出演者もだんだん集まってきました。まずは自分の化粧を終えて、子どもたちの顔を見に行き…そうしているうちにリハーサルが始まります。あとは本番まで流れ込みます。なんだか分からないうちに一日が終わります。毎年こんなことを繰り返しながら、一度くらいはゆったりと本番を迎えたいものだと思うのです。出演者が感想文を書いてくれました。緊張したけど楽しかったね！本番の踊りは、みな本当によく踊ってくれました。出演者の心の躍動が見て下さった方々にも伝わったことと思います。トップニュースの後、みなさんの感想を紹介します。

NEWS！！校長室に呼ばれた！

「ヒムカ～！」花道からヒムカをさがして走り出た細田和海南君。発表会が終わった後、なんと校長室に呼ばれました。「あの・呼ばれました細田和海南です。」と校長室へ入っていくと、出迎えた校長先生は和海南君の肩を抱いて「発表会よかったよ！よかったよ」とおっしゃったそうです。校長先生が発表会を観に来て下さったことだけでも感激なのに、一生の宝物になるね。和海南君は神戸市立住吉小学校の5年生。校長先生のお名前は長嶋淳平先生です。

毎年、とても楽しみにしている発表会。自分が舞台上に立って踊るのも楽しいし、先生や他の上手な人のダンスを見るのも楽しいです。家族に「去年より上手になったね。」とほめられたり、友達に「すごいよかったよー！」と言ってもらえて、もっともっと上手になりたいと思いました。これからも、もっとたくさん練習して、もっとキレイにしなやかに踊れるようになりたいです。そして、“お楽しみに”に出られるぐらい上手になりたいなと思いました。 門家由采 (小5)

最初は緊張したけど、リサちゃんが初めに仲良くなったお友だちを紹介してくれたので仲良くなれてうれしかったです。そのため、本番は楽しく踊れたし緊張しませんでした。 可久絵理奈 (小4)

初めての発表会はきんちょうしたけどとても楽しかったです。大きな舞台に出れて、練習どおりにおどれました。来年もぜひ出たいです。 継山莉紗 (小4)

しっばいしたけどたのしかったです。むずかしかったです。 横山莉緒 (小3)

むずかしかったけどちょっと楽しかったです。 明間若菜 (小3)

しっばいしたけどたのしかったです。 加本晴香 (小3)

はっぴょう会

リハーサルはとちゅうでねつがでてできませんでした。それに、ふだんはもうとと、二人しかいなかったのがあわすのがむずかしいと思ったけど、本ばんはうまくできてよかったです。これからもれんしゅうをがんばりたいです。「ジュッテアントラッセ」がにが手なのでそこをれんしゅうしておけばほかのこともできるかもしれないのでそこをがんばりたいとおもいます。 おわり 荒蒔来実 (小2)

私は初舞台で緊張しました。でも思う通り踊れたので楽しかったです。 Saya (小6)

ここが好き！～保護者編

踊って自分を表現することで先生にほめてもらえ、自信がついて来て、体も引きしまり生き生きとしている娘の姿をみると続けてきて良かったと思います。

教室の中で一番年が小さくて、新しいので、皆と比べていろいろなことができないけど、どんどん体がやわらかくなっているような気がして、とても楽しいです。親としては、姿勢があまり良くないので、バレエを通じて姿勢が良くなれば良いなと思っています。

もともと歌や踊りが好きだったので教室に見学に行きました。すると本人が「やりたい」と言ったので、行かせることになりました。モダンバレエでは先生に習い、みんなと合わせて自由に踊るところが楽しいと感じているようです。子どもが興味を持ったことには出来る限り経験・チャレンジさせてやりたいと思っています。 人前で踊ったり歌ったり話をする事で自分に自信が付き、何事にも前を向いて進んでいける人間になってくれればと願っています。

たくさんのお友だちとなごやかな雰囲気の中で楽しみながらダンスを習えるところが良いと思います。

生徒ひとりひとりのことをきちんと見て頂けている点が好きです。アットホームな雰囲気を感じます。

5歳になりお稽古の内容、振り付けを大分理解して練習できるようになったところです。4歳で始めたばかりの頃から踊るのが大好きで、すぐにお教室が好きになったようです。先生は生徒のことをよく見てかわいがって下さるので、本人は無理せず自発的に少しずつ進歩していける様子です。本人は努力する様子をほめていただけの嬉しいようでもあり、一方では自分にまだ分からないところやできないところがあるのを気付いており一生懸命練習しているようです。「疲れる」とは言いますが、「やめたくない」と言います。くじけずに楽しく続けられるのが、経験ある愛情深い先生のもとでお稽古できるからこそ思っております。踊りに関しても、音楽に合わせて自分たちで創っていくという意識が小さい頃から体得できる良い経験をさせて頂いています。

子ども一人ひとりの個性に合わせてご指導頂けるところが好きです。上級生を見ていると、身体をのびのび動かして踊っておられるのでいいなと思います。

やや抽象的かもしれませんが「舞踊研究所」という名前に込められているであろうコンセプトあるいはベクトルが好きです。それと入口脇のCDコレクションも好きです。

CDコレクションをほめていただいたついでに。批評家の先生が来ておっしゃることの中に、必ずでてくるのが「音楽の選択がすごく良い。音楽の勉強を非常によくしている」ということ。これが勉強しているということなのかは分かりませんが、本部教室の入り口脇のCDコレクション以外にも、個人的に教師たちはすごい数のCDを持っています。一つの作品を創るのに、とにかく音楽を聴きまくるからです。一枚のCDを買ってその中で音楽が決めることができた、というのはめったにありません。作品を創る度にCDが何枚か増えていきます。今回のリサイクルで「流れの中で」の音楽を決めるのに、実に、7枚のCDを買って聴きました。またコレクションが増えました。 責任編集 菊本千永